

7と、小さいが連続してかかる。この右岸にも伐採地が広がっていた。ゴルジュが現れ、沢は逆S字に曲がる。その先にF8五段が現れるが、軽くパス。

伐採地が終わる頃にナメが現れ、沢の水も少なくなってきた。やがて平坦な場所にて、沢が二分した。水はもうチヨロチヨロ。

右に進むと、すぐ水もなくなり、



後沢の遊行

一五分程でコルへ出た。ここで昼食をとり、茂庭沢に向けて下降に移る。

(記・)

後沢

一九八四年六月九日

布入部落の少し先に車を置いて、部落の中を通り布入川に入る。雪解

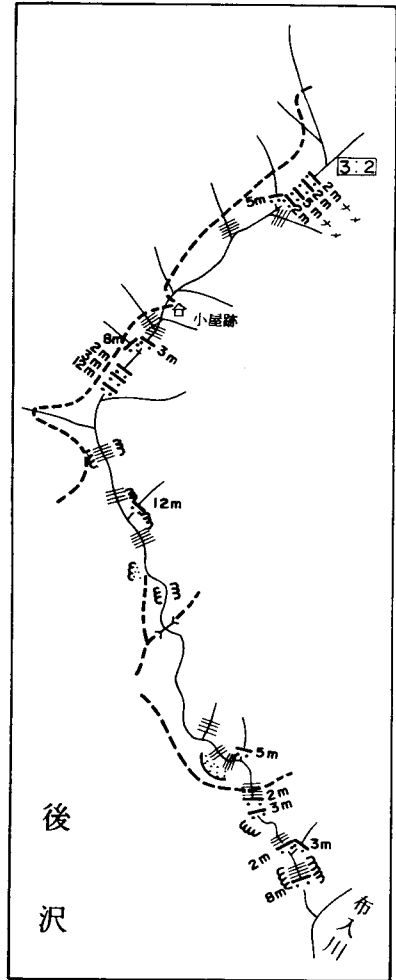
けによる増水を見越していたが、もう水もぬるみ、水量も少なかった。後沢出合までは滝が一つと砂防ダムが一つあった。一〇時〇五分、後沢出合。後沢に入つてすぐ、沢が

右に曲がり、その先にF1八段が現われた。左より登り、右へ斜上して越える。

上はナメである。右より溜滝をかけた支沢があつて、本流は小滝が続き、ナメが随所に見られた。

やがて踏跡が沢を横切る。ここから焼松よりの道にかかる丸太橋の所まではヤブコギをしながらの遊行となった。

丸太橋を過ぎると、今度は沢が大きく左へ右へと曲がる。兩岸の所々



後
沢

にスラブが見られるが、沢の方は一部にナメが出てくる程度で平凡。

ミニゴルジュを過ぎ、左右から支沢を合わせた先で一二びの滝。真中をシャワーで直登できそうにも思えたが、右側を直登する。上部が少し不安定なので、長いシュリンゲでビレーした。

この上の小滝は何なくパス。この少し上流左岸には骨組みだけが残っ

た小屋の残骸があった。このあたり滝はしばらくかからないが、イワナの姿を時々みかける。一匹手づかみでつかまえた。一六センチ。小さいので逃す。魚止めはこの先二びの滝であった。

魚止めに続く小滝群を越えると二俣。左に入る。するとすぐまた二俣。左は水がないので、今度は右に入る。しばらく歩くと、炭焼きの跡が随所

に見られるようになった。水が溜れた所で遊行終了とし、少し戻った後、踏跡を使って戻る。

(記)

- 「タイム」 布入部落(九
- 二五)↓布入川(九
- 三〇)↓後沢出合(一
- 〇〇五)↓丸太橋(
- 一〇〇四〇)↓遊行終

了(一三〇〇)



後沢の遊行